TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

スペインの港湾ストライキ・続報

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動火災保険株式会社
（2017 年 6 月 8 日）

マリントピックス 5 月 26 日号でお伝えした世界各地の港湾ストライキ情報のうち、スペインでその後の動きがありましたので、続報をお伝えいたします。

1. ストライキに至った背景

スペイン政府は長年にわたり、『欧州連合の機能に関する条約』に違反すると問題視していた港湾労働者の雇用慣行に対し、条約に則った具体案提示を港湾労働組合に求めてきました。これまで雇用が保証されていた港湾労働者ですが、新しい法律の下では、港が組合に属さない港湾労働者を雇用できることになるため、組合に属する港湾労働者の大規模なレイオフの可能性があります。これを不服とする 6,000 人以上の港湾労働者を擁する港湾労働者組合は先月、右記 8 日間（5 月 24 日、26 日、29 日、31 日、6 月 2 日、5 日、7 日、9 日）でストライキを行うと発表しました。

その後港湾雇用協会との会談で一部は合意に至ったため 5 月 24 日から 6 月 2 日までの 5 日間はストを中止しました。しかし、組合側は会談内容が港湾労働者の雇用の安全を 100%保証するものではなかったと判断し、今週 6 月 5 日（月）、7 日（水）、9 日（金）にスペイン全土の港においてストが実行されることになりました。スト実行日は作業を止め、それ以外の日はスローダウン（作業速度を遅らせる）戦術を行うものです。なお、ストは今週金曜までにとどまらず、来週 6 月 14-15 日の 48 時間、さらに 19 日、21 日、23 日と続けられることが示唆されています。

2. 物流への影響

ストが起きているのはスペインの 39 の貨物港で、完成車の輸送などに影響が起きています。スペイン国内に工場を有する一部の自動車メーカーは既に輸送を海上から陸路に切り替える対策をとっていると報じられています。スペイン港湾統計によると、度重なるスト予告と延期による影響により、スペイン国内で最も貨物取扱量の多いアルヘシラス港は 2017 年に入って既に 5.98%交通量が減ったとされています。アルヘシラス港はスペイン南部のアフリカ対岸に位置し、地中海沿岸から大西洋に向かう多くの船が航行するため、今回のストにより複数の船社はアルヘシラス港の寄港を取り止め、モロッコやポルトガルなどの周辺国の港を利用するなどの回避策を余儀なくされています。

港湾労働者と港湾雇用協会は依然合意には達していないため、今後もストによる混乱は引き続き継続すると見込まれます。

◇◆◇◆◇◆